

## 【臨床・研究】

## 肺癌患者における不眠の検討

かわ	さき	ゆう	じ	こしょうぶ	とも	あき	なか	たに	しげる		
河	崎	雄	司 <sup>1)</sup>	小勝負	知	明 <sup>2)</sup>	中	谷	葆 <sup>2)</sup>		
わた	なべ	えつ	こ	とう	げ	ひろ	かず	とく	やす	ひろ	かず
渡	部	悦	子 <sup>1)</sup>	唐	下	泰	一 <sup>1)</sup>	徳	安	宏	和 <sup>1)</sup>
おか	さき	りょう	た	うえ	だ	やす	ひと	こ	たに	まさ	ひろ
岡	崎	亮	太 <sup>3)</sup>	上	田	康	仁 <sup>3)</sup>	小	谷	昌	広 <sup>3)</sup>
か	とう	かず	ひろ								
加	藤	和	宏 <sup>4)</sup>								

キーワード：肺癌，不眠，睡眠薬，抑うつ，倦怠感

## 要 旨

入院で治療中の肺癌患者61名で不眠の頻度を睡眠薬処方の有無とともに調べた。また、不眠と抑うつ、倦怠感、痛みとの関係についても検討した。患者の61名中36名（59%）に不眠を認めた。その内訳をみると、睡眠薬を処方されていなかった患者37名中24名（65%）に不眠があった。睡眠薬を処方されていなかった理由として、患者が医療提供者（医師、看護師）に不眠を訴えていないか、医療提供者サイドで患者の不眠を過少評価している可能性が考えられた。一方、睡眠薬が処方されていた24名中12名（50%）にも不眠があり、不眠に対して睡眠薬のみでは十分でなく、非薬物学的介入が必要と思われた。また、不眠には抑うつや倦怠感が関連し、不眠を軽減するためには抑うつや倦怠感へも介入する必要があるものと考えられた。肺癌患者のQOLを向上させるためにも患者の不眠の有無を把握し、総合的に介入することが重要と思われる。

## はじめに

不眠はがん患者の生活の質（QOL）を低下させるため<sup>1)</sup>、介入の重要な標的症状である。しかし、不眠の患者は多いにもかかわらず、がんの臨

床では問題視にされてこなかった経緯もあり<sup>2)</sup>、不眠への介入が十分に行われているとは言いがたい。臨床の場において、不眠への介入の第一選択は睡眠薬の処方である。そこで、ここでは肺癌患者の不眠の頻度と睡眠薬処方について調べ、不眠に対する介入の現状と問題点を検討する。

また、がん患者の不眠は抑うつ、倦怠感、痛みなどと関連していることが知られている<sup>3)</sup>。近年になり、不眠、抑うつ、倦怠感などを一塊として捉え、総合的に介入しようとする考えが提唱され

Yuji Kawasaki et al.

- 1) 松江赤十字病院呼吸器科
  - 2) 独立行政法人国立病院機構米子医療センター呼吸器科
  - 3) 鳥取大学医学部分子制御内科
  - 4) 山陰労災病院呼吸器内科
- 連絡先：〒690-8506 松江市母衣町200番地